

総合芸術の先駆者

齋藤 佳三

さいとう かぞう

出身地 由利本荘市（旧矢島町）

1887年（明治20年）～1955年（昭和30年）

東京美術学校で服装学、意匠図案学を指導。早くから生活美術を提唱し、帝国ホテルのインテリアをはじめ服飾、家具、舞台のデザインと幅広く活躍。工芸美術の地位確立を目指し、帝展に工芸部門を新設した。



年譜

- 1877年 由利本荘市（旧矢島町）に生まれる。本名・佳蔵。
- 1913年 東京美術学校卒業。
ベルリン王立美術工芸学校で構成美術を専攻。
- 1919年 東京美術学校講師。
- 1922年 ドイツ、フランスに出向。
- 1929年 帝国劇場、帝国ホテル、歌舞伎座のインテリアを担当。
中華民国国立芸術院教授に招聘される。
- 1939年 『国民服の考案』を出版。
- 1946年 日本女子大学講師。東筑紫学園短期大学教授。
- 1955年 東京都で没。68歳。